

# 非液体・非積層型・熱処理用被覆材

企業 / (株)ヤマサン

研究者 / 木田勝之 (大阪大学基礎工学部助手)

今までの熱処理皮膜材は液状タイプとテープ状と2種類がある。前者はキシレン・シンナー等の希釈剤を利用するために以下の問題がある。まず作業環境問題、もう一つは液状のため有効成分が固まる迄に下方に偏る傾向がある。後者は粘着性が片面のために使用しにくく、又形状一定型のためネジ部、穴部等に適合しない。これらの問題を解決するため、粘着型でキシレン等を使用しない(粘土状の)熱処理皮膜材としてまとめあげ300~1000の間で使用に耐えうる非液体非積層型熱処理皮膜材を実現する。

浸炭防止に関してある程度の性能を有する被覆材を実現することができた。今後、昇温過程における高粘性の維持、また、安定した機能の発現について、引き続き研究開発を行っていく必要がある。



加圧型ニーダー(プラスチックとタック材との混練り用)